



コモンズ30 +しづぎんファンド

〈月次報告書〉



● 基準価額の推移



● ファンドのデータ

(2016年5月31日付)

基準価額	9,690円
純資産総額	454百万円

● 基準価額の騰落率

(2016年5月31日付)

1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	設定来
2.71%	7.19%	▲11.22%	▲15.43%	▲3.10%

● ポートフォリオの構成比

	当月末	前月末比
コモンズ30ファンド (マザー)	91.9%	▲0.3%
静岡銀行株式	7.8%	0.2%
現金等・その他	0.2%	0.1%
構成銘柄	31社	0社

● 分配実績

第1期 (2015年12月18日)	0円
----------------------	----

● 運用状況(コモンズ30+しづぎんファンド)

当ファンドは、コモンズ30マザーファンドを純資産総額の90%を組み入れ、静岡銀行株式を10%を上限として高位に組入れることを運用方針としています。5月末における各組入比率は、コモンズ30マザーファンド91.9%、静岡銀行株式7.8%です。当ファンドの月間リターンは2.71%の上昇となりました。なお、コモンズ30マザーファンドは3.02%の上昇、静岡銀行株式は0.48%の上昇となっています。コモンズ30マザーファンドの運用状況については下記をご参照ください。

● 運用状況(コモンズ30マザーファンドについての記載となります)

◎5月のファンド月間リターンとその要因

5月のファンド月間リターンは3.02%の上昇となりました。銘柄別の月間リターン上位5銘柄は、「日東電工(+20.76%)」、「資生堂(+17.69%)」、「シスメックス(+15.71%)」、「堀場製作所(+13.13%)」、「ディスコ(+11.52%)」となりました。

◎新規買付及び全売却決定銘柄、月末の組入銘柄数

5月に決定された新規買付銘柄及び全売却銘柄はありません。したがって5月末の組入銘柄数は前月と同様に30銘柄となりました。

◎5月末のポートフォリオの構成比(株式組入比率)

5月末の株式組入比率は前月末(97.1%)から約0.6%引き上げ、97.7%となりました(残り2.3%程度は現金などを保有)。月を通しての株式組入比率は97~98%程度を維持しました。

◎5月末の組入上位10銘柄と投資行動

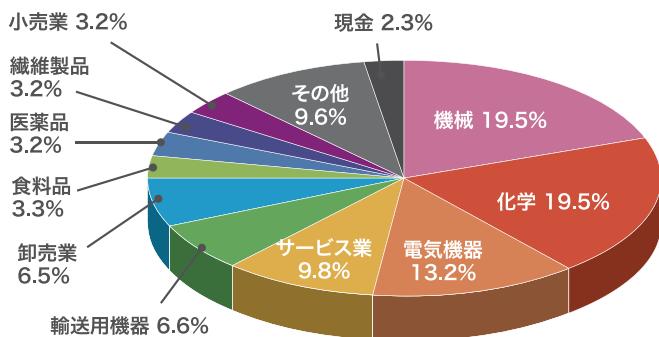
5月末の組入上位10銘柄は、「ディスコ」、「資生堂」、「東京エレクトロン」、「堀場製作所」、「デンソー」、「味の素」、「日立製作所」、「楽天」、「ホンダ」、「三菱商事」です。投資行動としては、「投資委員会」にて承認された運用計画に基づく各銘柄の組入比率(2.5~3.5%)とするために、株価下落により相対的に組入比率が下がった銘柄を買い増し、相対的に組入比率が上がった銘柄を一部売却しました。

◎運用・調査体制について

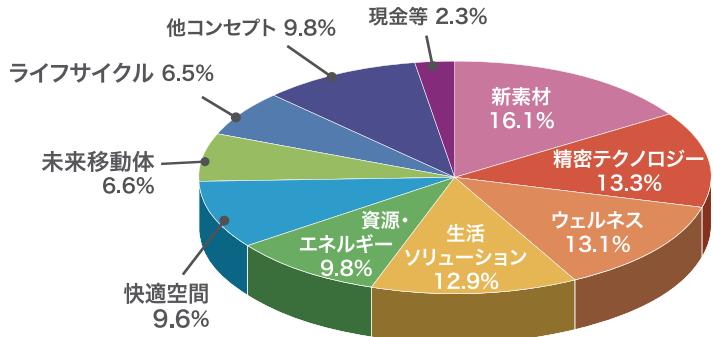
運用・調査体制については5ページ目をご確認下さい。

● コモンズ30マザーファンドの業種別構成比と未来コンセプト別構成比

◎ 業種別構成比



◎ 未来コンセプト別構成比 (2016年5月31日付)



- 比率は純資産総額を100%として計算しております。
- 比率は四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。
- 業種については東証33分類に基づいて記載しております。

※未来コンセプトは全10種類。詳細は5ページ参照

● 組入上位10銘柄(静岡銀行株式を除く)

(2016年5月31日付)

銘柄名 [コード]	業種	未来コンセプト	概要
ディスコ [6146]	機械	精密テクノロジー	半導体やLEDの製造に欠かせないグラインダーやダイサーなどを製造しています。「誰が正しいかではなく、何が正しいか」など、ディスコバリューで自社の経営体制も磨き続けています。
資生堂 [4911]	化学	ウェルネス	巨大市場の中国、アジアで認められた美の感性、アジア人の肌を知り尽くした技術、おもてなしの心(接客力)が成長の牽引力となっています。
東京エレクトロン [8035]	電気機器	精密テクノロジー	「医療や環境、新しい産業の未来を考えると半導体チップの将来は無限」との確信のもと、技術商社から出発、成長ポテンシャルが高いうえ、企业文化においても「TELバリュー」を持ち、社内を活性化させるしくみがあります。TELバリューの5つの軸は、「チャレンジ、チームワーク、誇り、オーナーシップ、自覚」で、社内で起用されています。
堀場製作所 [6856]	電気機器	精密テクノロジー	創業者経営哲学「おもしろおかしく」を継承し、国際展開、自動車用から科学(研究)用、半導体用、現在の医療用まで、時代に応じて事業分野を拡大中です。ニッチ市場で高いシェアを誇り、事業分散と地域分散を組み合わせたマトリックス経営をしています。買収・提携も巧みです。
デンソー [6902]	輸送用機器	未来移動体	1949年にトヨタ自動車から分離独立し「日本電装」として創業。自動車市場の拡大や自動車のモジュール化(複数の機能をまとめた部品にすること)などが追い風となります。今後の成長が期待される自動運転では、ソフトウェア開発に注力するとともに、技術力を武器に強みを発揮していく見込みです。
味の素 [2802]	食料品	ウェルネス	日本の昆布だから抽出した「うま味」を発見、世界の食文化に合わせた、調味料や加工・冷凍食品、飲料などを提供しています。2050年の世界人口90億人時代を見据え、東南アジア、中南米、アフリカで販売ネットワークを構築、ネスレ、ユニリーバ、ダノンを追いかけています。
日立製作所 [6501]	電気機器	社会インフラ	2008年度の巨額赤字後、マネジメントの強力なリーダーシップで進められた構造改革で強靭な組織になり、収益体质も強化されました。「インフラとITをつないで、世の中を便利にする」をモットーに、グローバルでの展開を加速。重視する「ダイバーシティ」が、成長の大きな武器になります。
楽天 [4755]	サービス業	生活ソリューション	社内公用語の英語化、海外企業買収など、成長に向けた強い意欲が際立ちます。社員による店舗サポートが強みで、理念の共有、教育等の人的資産投資を積極的に行ってています。
ホンダ [7267]	輸送用機器	未来移動体	お客様に自動車のみならず、夢の詰まったモビリティー(移動体)を適正価格で提供します。歴史的に難局に強く、創業から脈々と流れるチャレンジ精神で、持続可能な成長を遂げています。
三菱商事 [8058]	卸売業	資源・エネルギー	地球規模の視点で、事業(非金融)と投資(金融)を組み合わせという世界でも稀な事業モデルです。三菱三綱領をベースに、長期持続的成長を意識した経営を志向しています。引き続き世界経済の成長を享受して、成長を続けると思います。

● 新規組入投資先

なし

● 今月のピック！

5月はベネッセホールディングスの株価が21.10%と大幅に下落しました。

6日の後場取引終了後に、会社側からの発表で、2016年3月期連結最終利益が82億円の赤字（従来計画は38億円の黒字）になったことが引き金となりました。株価は連休明け9日の1日だけで20%急落しました。2014年の顧客情報漏えい事件の影響で、国内通信教育講座の会員数の減少基調に拍車がかかったことが赤字転落の背景です。代表取締役会長兼社長の原田泳幸氏は、6月25日付けで退任します。原田氏は2014年6月21日付けで代表取締役社長に就任しました。就任後間もない7月に明らかとなった顧客情報漏えい事件の影響を受けた業績悪化といえども、経営トップとしてはけじめが必要と判断。2017年3月期が3年連続減収減益の見通しになることを受け、トップとして振る舞い方を熟考した結果、けじめと責任を取ることを決意しました。新社長には、2007年から代表取締役副会長あるいは副社長として経営に関わってきた福原賢一氏が6月25日付けで昇格します。

運用部・シニアアナリスト 上野 武昭

● 企業との対話

コモンズ30ファンド7周年イベントin大阪＆名古屋－クボタ、デンソーをお迎えして

5月21日(土)、22日(日)に大阪・名古屋にてコモンズ30ファンド7周年イベントを開催しました。大阪ではクボタ、名古屋ではデンソーにご参加いただきました。いずれもコモンズのイベントには初登場となる地元企業です。クボタからは、グローバルマネジメント推進部IRグループ長中林さまがご登壇。クボタが着目する「食糧」「水」「環境」といった3つの課題を取り上げて、国内外で展開されている事業内容についてご説明いただきました。創業者の「技術的に優れているだけではなく、社会のみなさまに役立つものでなければならない」という今日に至るまで受け継がれてきた企業理念を強く感じことできるお話をでした。

パネルディスカッションでは、「成功体験という『岩盤』をくだいて、新陳代謝をどう高めていくのか?」「社外取締役に期待する役割」などのテーマで話が進みました。また、お客様からは、「感動を生み出す工場」とはどういう意味ですか?という質問も。これに対しては、「感動を与えるモノづくり。工場の見た目ではなく、品質を大事に、ひとつひとつの製品をミスなくきっちり仕上げていく。お客様にとって、クボタの製品であれば安心して買えるというものをづくりを大事にしている。」というお話を頂きました。

翌日の名古屋では、デンソーの常務伊藤様にご登壇いただきました。デンソーが日本電装としてトヨタから分離したころのお話、苦しい経営状態の中から新しい製品を生み出すことで今では世界的な自動車部品メーカーにまで育った歴史のお話などがありました。そこには、「技術、モノづくり、ヒトづくり」にこだわってきた企業文化があったのです。

パネルディスカッションでは、「事業から撤退するときの判断基準」、「人づくりというのは具体的にどのような形で行われているのか」、などがテーマに上がりました。会場からは、自動車産業の未来をどのように見ているのか、という質問も。真摯にお答えくださる伊藤様の姿が印象的でした。

コモンズ30ファンドは、投資による金銭的価値はもちろん、投資が本来持っている「社会的価値(ソーシャルリターン)」を追求することもファンドの目的としています。この目的を達成するための「common ground=共有地」がこうしたイベントでの企業様との対話の場です。ご参加いただいた2社に、改めて心からの感謝を申し上げるとともに、今後も積極的にこうした場を作っていくたいと思っています。この日の様子を弊社のブログでも紹介しています。ぜひ、こちらもご覧下さい。

大阪：http://park.commonson30.jp/2016/05/blog-post_24.html

名古屋：http://park.commonson30.jp/2016/05/blog-post_26.html

マーケティング部 福本 美帆

● メディアに登場！

日付	掲載メディア	ニュース
5月6日	Sankei Biz	「投資家交流で兜町再活性化 平和不動産、新たな情報発信拠点運営」で草食投資隊が紹介されました
5月9日	日経新聞	【国内株式概況】「今週の見通し・株式 上値重い展開」で糸島がコメントしました
5月10日	日経電子版	「ロボットカーに追われる自動車株 世界時価総額ピーク比50兆円減」で糸島がコメントしました
5月11日	日経新聞	【国内株式概況】「東証14時、膠着感強まる 利益確定売りで上値重い」で糸島がコメントしました
5月18日	BSジャパン	「日経プラス10」に糸島が出演しました
5月18日	日経新聞	【国内株式概況】『日本株、GDP「いいとこ取り」で銀行株高』で糸島がコメントしました
5月19日	日経新聞	【スクランブル】「1株利益、選別の目安に 自社株買い増え注目度高く」 で糸島がコメントしました
5月22日	日経電子版	マネーブログカリスマの直言に「若者が聞く日本の未来と資本主義」と題し渋澤が寄稿しました
5月24日	岐阜新聞	渋澤栄一記念財団執行理事・渋澤健氏企業経営に外の視点を◆テーマ「論語と算盤」で未来を拓く
5月24日	TV東京	モーニングサテライト【私の相場観】に糸島が電話出演いたしました
5月24日	日経電子版	【出世ナビ】私を変えたMBA 渋澤栄一の玄孫がMBAでつかんだ2つの大切なこと 渋澤健・コモンズ投信会長に聞く(上)
5月30日	日経電子版	【出世ナビ】私を変えたMBA 改めて響く高祖父渋澤栄一の言葉 渋澤健・コモンズ投信会長に聞く(下)
5月30日	日経電子版	「株薄商い、日本を「ご都合主義」と見始めた海外勢」で糸島がコメントしました
5月30日	ネットマニー	別冊「長期投資本格入門ガイド」で草食投資隊が紹介されました

● ちょっといい話

【貯めて、殖やす】

コモンズ投信 伊井です。

全国的に梅雨入りとなりましたが、金融市場も、すっきりしない展開が続いています。

こうした時の心構えを日米の投資信託の利用の違いから考えてみます。

2016年3月末の日本の投資信託の純資産残高は約92兆円。大きな金額に見えますが、米国の同時点の残高は約1660兆円と日本の18倍近い規模。米国では国民の約半数の方が投資信託を保有していますが、その点では、日本はまだ限定的です。では、何がここまで違うのでしょうか。日本の投資信託は、主にシニアの方々を中心に売買で利益をあげるために投資信託が活用されてきました。これは「殖やす」ことに利用してきたことを意味します。一方で米国ではDC(確定拠出年金)が中心となり投資信託を積み立てで利用している人が約7割といわれています。つまり、売買に頼らず中長期的に「貯めて、殖やす」という制度の利用がベースにあります。

我が国でも先日、確定拠出年金法の改正案が成立し、来年から多くの方が利用できるようになります。これで、NISA、ジュニアNISAともども日本でも資産形成をサポートする非課税制度が充実してきます。最近、業界的には年初からの相場の急落などもあり、積み立てを止める方が多いようです。リーマンショック時も同様の傾向がありましたが、実は、積み立てを続けられた方や、下落局面と判断し増額された方が、その後、しっかりと利益を享受されています。環境が悪い時ほど、積み立てを【続ける】ことが威力を発揮します。

中長期的な家計の資産形成には「貯めて、殖やす」が不可欠です。

コモンズ投信は、そんな皆さんのお役にたてるように頑張ってまいります！



コモンズ投信株式会社 代表取締役社長 伊井 哲朗

● 運用体制と役割(コモンズ30マザーファンド)

- 新規組入投資先と全売却投資先の決定は、投資委員会での全員一致が原則
- 20%以上の現金比率についても、投資委員会で決定
- メンバーと役割は以下の通り

伊井 哲朗	代表取締役社長 最高運用責任者	・投資委員会議長 ・10~20%の現金比率の決定
渋澤 健	取締役会長	・非財務的な企業価値を含む経営の視点
糸島 孝俊	運用部長 チーフポートフォリオマネージャー	・新規組入・全売却の投資委員会への提案 ・組入先ウェイトのリバランス(2%~4%) ・10%以下の現金比率の決定
鎌田 聰	運用部 シニアアナリスト 兼 ポートフォリオマネージャー	・新規組入・全売却の投資委員会への提案
上野 武昭	運用部 シニアアナリスト	・新規組入・全売却の投資委員会への提案
末山 仁	運用部 シニアアナリスト	・新規組入・全売却の投資委員会への提案

● 投資銘柄の選定プロセス



● 未来コンセプトについて

当ファンドが独自に行っている業種分類です。以下のように10種類に分類を行っております。

コモンズ流未来コンセプト10

資源・エネルギー	新素材	精密テクノロジー	ウェルネス	生活ソリューション
社会インフラ	未来移動体	快適空間	地球開発	ライフサイクル

● コモンズ30+しづぎんファンドの費用について

購入時手数料	指定販売会社が、別途定める購入申込手数料を申し受ける場合があります。
換金手数料	ありません。
運用管理費 (信託報酬)	ファンドの純資産総額に年1.242%(消費税込)を上限とした率を乗じて得た額とします。なお、基準価額は、信託報酬控除後のものです。信託報酬は、純資産総額の一定の増加により遞減する仕組みになっています。
信託財産留保額	ありません。
その他の費用 手数料	当ファンドに組み入れる有価証券等を売買する際の売買委託手数料およびこれにかかる消費税等相当額などの実費が投資信託財産より控除されます。また、目論見書・運用報告書等作成費用、監査費用、信託事務に要する諸費用等として、純資産総額の0.108%(消費税込)を上限として投資信託財産より控除されます。

※上記の手数料(費用)等の合計額については、保有期間に応じて異なりますので、上限額等を事前に示すことができません。

● コモンズ30+しづぎんファンドのリスクについて

当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資するため、その基準価額は変動します。したがって、お客さま(受益者)の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割込むことがあります。委託会社の運用により生じるこうした基準価額の変動による損益は、すべてお客さま(受益者)に帰属します。なお、投資信託は預貯金と異なります。
※リスクの要因は、上記に限定されるものではありません。詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

● お申込みメモ

信託設定日	2014年12月29日
信託期間	無期限(ただし、ファンドの残存口数が10億口を下回った場合等には信託期間の途中で信託を終了させることができます。)
分配方針等	毎決算時に、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないことがあります。当ファンドは分配金再投資専用です。よって、分配金は税金が差し引かれた後、自動的に再投資されます。なお、収益の分配に充てなかつた利益については、運用の基本方針に基づいて運用を行います。
購入単位	販売会社によって異なります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
換金単位	販売会社によって異なります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
換金価額	換金申込日の翌営業日の基準価額
換金代金の支払い開始日	換金申込日から起算して5営業日目
申込締切時間	購入・換金ともに原則毎営業日の午後3時までです。 午後3時を過ぎてのお申込は、翌営業日のお申込みとして取扱います。

● 販売会社一覧

販売会社名称	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	日本商品先物取引協会
(株)静岡銀行	登録金融機関 東海財務局長(登金)第5号	○	○		
マネックス証券(株)	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	
静銀ティーエム証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長(金商)第10号	○			